

令和6年4月19日

【照会先】

政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室

統計管理官 鎌田 真隆

室長補佐 齋藤 重正（内線7471）

（担当・内線）

死亡担当 計析第一係（内線7470）

出生担当 計析第二係（内線7472）

（代表電話）03(5253)1111

（直通電話）03(3595)2812

報道関係者 各位

## 人口動態統計特殊報告「平成30年～令和4年 人口動態 保健所・市区町村別統計」を公表します

厚生労働省では、このほど、「平成30年～令和4年人口動態保健所・市区町村別統計」の概況を取りまとめましたので公表します。

「人口動態保健所・市区町村別統計」は「人口動態統計」を基に5年分（国勢調査の年を中心に5年）のデータを集計したもので、昭和58年～昭和62年を初回とし、今回で8回目となります。

本概況では、市区町村別の合計特殊出生率と標準化死亡比を算出しています。

### 【結果のポイント】

#### ○ 出生

- 市区町村別の合計特殊出生率は、鹿児島県大島郡徳之島町が2.25で最も高く、京都府京都市東山区が0.76で最も低くなっている（3頁）。

#### 上位3位

順位	都道府県	市区町村	合計特殊出生率
1	鹿児島県	大島郡 徳之島町	2.25
2	鹿児島県	大島郡 天城町	2.24
3	沖縄県	国頭郡 宜野座村	2.20

#### 下位3位

順位	都道府県	市区町村	合計特殊出生率
1	京都府	京都市 東山区	0.76
2	大阪府	大阪市 浪速区	0.80
3	京都府	京都市 上京区	0.80

\*合計特殊出生率は、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当するが、本統計においては、5歳階級別の出生数及び女性の日本人人口で算出している。

※詳細は、別添概況をご参照ください。

## ○死亡

- ・市区町村別の標準化死亡比は、最も低いのは男性が大阪府豊能郡豊能町、女性が群馬県利根郡川場村となっており、一方、最も高いのは男女とも大阪府大阪市西成区となっている（5頁、6頁）。

### 上位3位

順位	男			女				
	都道府県	市区町村		標準化死亡比	都道府県	市区町村		標準化死亡比
1	大阪府	豊能郡	豊能町	76.7	群馬県	利根郡	川場村	64.0
2	神奈川県	横浜市	青葉区	77.1	沖縄県	中頭郡	北中城村	70.3
3	神奈川県	川崎市	麻生区	77.4	長野県	北安曇郡	松川村	77.5

### 下位3位

順位	男			女				
	都道府県	市区町村		標準化死亡比	都道府県	市区町村		標準化死亡比
1	大阪府	大阪市	西成区	193.6	大阪府	大阪市	西成区	135.7
2	大阪府	大阪市	浪速区	141.2	東京都	西多摩郡	奥多摩町	135.2
3	東京都	西多摩郡	奥多摩町	136.7	埼玉県	児玉郡	神川町	126.7

\*標準化死亡比は、性、地域ごとに「期待死亡数」（その地域の5歳階級別死亡率が全国の死亡率と同じとしたときの死亡数）に対する「実際の死亡数」の比を100倍したものであり、年齢構成の違いの影響を除いたものとして死亡状況の比較に用いている。

※詳細は、別添概況をご参照ください。